

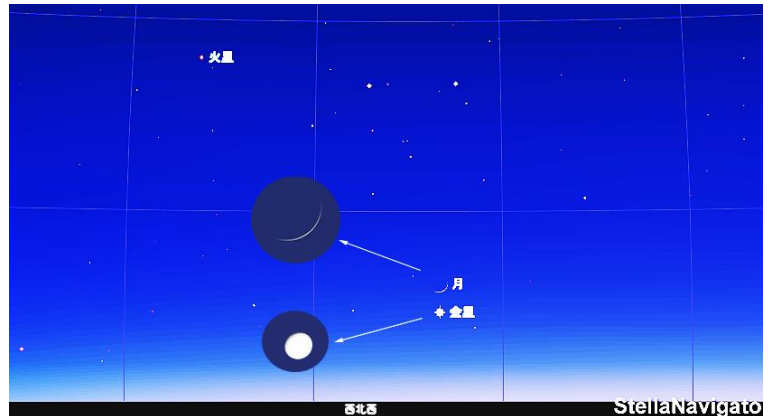


金星に近づく細い月

3月24日に外合を迎えた金星が「宵の明星」として夕方の空で見え始めました。太陽との距離がまだまだ近く日没後の低い空で輝きすぐに沈んでしまいます。

6月12日にはその金星のすぐそばに月齢2の細い三日月がやってきます。周りが暗くなってくる午後8時頃には地平線から5度の高さとずいぶん低いところに見えます。

この時、月は東側が大きくかけた細い三日月型に見えますが、金星を望遠鏡で見ると、東側が少しだけかけた太った満月近くの状態に見えます。同じように太陽の光を受けたところが輝いていて、ほぼ同じような場所に見えるのに輝いて見える場所が大きく違うのはなぜでしょうか。それは実際の太陽との位置に関係します。みなさんご



6月12日20:00頃の月と金星（足立区から）



6月12日の地球、月、金星の位置関係
（これは模式図で大きさ、距離を強調しています）

存知の通り、月は地球の周りをまわっていますが、金星は地球と同じように太陽の周りをまわっています。今回地球から見て、月は当然太陽の手前にあり地球には光が当たったところが少なく見えていますが、金星は太陽の向こう側にあり、光に当たった部分が大きく見えているのです。

かいせつじん ひきた あつし
（解説員：疋田 純之）